

---

# 病みつき学園

勳b

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

病みつき学園

### 【Nコード】

N4832Y

### 【作者名】

勲b

### 【あらすじ】

病みつきシリーズ連載第2弾！！

大きな学園で行われる恋愛劇。

普通とは違う特別で異常で過負荷で悪平等な恋愛劇。

不平等な恋愛劇。

『恋愛に平等なんて綺麗ごと』

## ブローグな1日（早朝）（前書き）

早速ヤンデレ要素0

## ブローグな1日（早朝）

「ほら、もう朝だよ。  
早く起きるんだ」

朦朧とする意識の中、そんな声が聞こえた。

「おいおい、早く起きないと遅刻しちゃうぜ？  
僕としては君の寝顔をもっと見たいところなんだけど、そのせいで君に迷惑が掛かるのは我慢ならないしね」

俺の上に掛けられていた布団が剥がされる。

「……寒い」

布団の温もりが恋しい。

「寒いのかい？  
僕も寒いと思っていたところさ。  
少しだけ温まろうか」

そう誰かが言い終わると多少の重みと共に体が温かくなってきた。

……誰かが言った？

この家には俺しか居ないはずだ。

……えっ？

なら、誰が

「暖かくなってきただろ。

僕は暖かくなってきたよ。

うん、やっぱり君は起きなくてもいい。

今日はこのまま一緒に居ようか。

そのほうが幸せだろ。

少なくとも、僕は幸せだ」

目を開けるとそこには嬉々として話す彼女

安心院あんしんいんさんが

目の前にいた。

俺の視界が安心院さんしか捕らえてないほど目の前だ。

「なっ……!?!」

「おおっと、朝から大声を出したら近所迷惑だぜ」

俺が口を開くと右手で優しく俺の口を塞ぐ安心院さん。

「君の質問に応えてあげよう。

なんせ、僕は君の言いたいこと、考えてることを全て知っていると  
言っても過言ではないんだ。

君の質問の1つや2つ聞かれなくてもわかるさ。

何で僕が君の家にいるかだろ？

応えは簡単さ。

君が作る朝食を食べに来たんだ。

君の作る料理は美味しいからね。

毎日のように食べなくなるんだ。

なのに、最近食べさせてくれないからね、こうして朝早くから君

の家に来て朝食を食べに来のさ」

……不法侵入ですか。

いやいやいやいや！

「だつたらなんで、安心院さんは朝から俺に抱きついてるんですか！！？」

安心院さんは俺の上から抱き締めるような体勢でいる。

「それは君が寒いって言ったからだろ。

僕の優先基準は君がトップだ。

君が寒いと言うのなら温めないと思ってね。

僕も寒かったし、こうして重なり合えばお互いに温かいだろ。  
だからこうしたのさ」

掛け布団があつたはずなんですけどね！

……いや、安心院さんに何を言っても無駄かな。

「今から朝食を作りますから退いてくれませんか？」

「断る」

……えっ

俺は即答した彼女の顔を見る。

「ここは君の家だ。」

そして、君は一人暮らししているだろ。

「ーことは、ここで僕が君に何をしても邪魔してくる人は居ない  
って事だろ。」

こんなチャンスを逃すほど僕は愚かではないよ。

学園では何時も邪魔されてばかりだしね。

こういう時間を使わないと君を僕のモノにはどきないだろうし。

さあ、君は大人しくしてるといい。

「なに、怖いことなんてしないからさ、安心するんだ（安心院さ  
んだけに）」

ここから先は、僕と君だけの時間だ。

愛し合ってる者同士のね」

そついうと彼女は顔を更に近づけてくる。

が

それは直ぐに止まった。

「何をしておるのだ、安心院あしむなじみ」

部屋の扉が開くと同時にそんな声が聞こえた。

「「！！」」

俺と安心院あんしんいんさんが驚きながら声がした方を向くとそこには

「早く私の彼から離れてもらおうか」

彼女            めだかちゃんが居た。



……何で居るんだよ！

ドイツもこいつも不法侵入ですか！！？

「おいおい、間違えてるぜ。

彼は僕のモノになるんだ。

断じて、めだかちゃんのものではない。

大人しく指をくわえて帰ってくれよ」

「断る！

ここから去るのは貴様の方だ、安心院<sup>あじむ</sup>なじみ！！

貴様は彼に悪影響しか及ぼさないからな、早く出てってくれないか」

互いに互いを睨みながら言う。

こんな気まずい空気のなか俺が口を開く。

「あ、あの……」

「なに、安心するといい（安心院さんだけに）

めだかちゃんには早く出てってもらうさ。

ここにいるのは僕と君だけで充分だ。

それ以外はただのゴミだ。

僕は綺麗好きでね、ゴミの処分は好きなほうなんだ。

さあ、ゴミは早く処分しないとね」

「違うな。

彼に必要なのは私だ。

私だけだ。

それ以外は彼には必要のない人間だ。

そして、私も彼しか必要としていない。

私には彼が必要なのだ。

故に、必要のない者は早く消えてくれないか。

今の私は彼以外の人間を見たくないのではな

更にキツく睨み合う2人。

「い、いや、そうじゃなくて!!」

俺が言つと2人が此方を向く。

「そろそろ時間だから朝食作らないと!!」

どうにかしてこんな気まずい空気をどうにかしたい。

「そうだね。」

僕の今日の目的は君が作る朝食を食べることなんだし、大人しく  
言つことを聞こう

そう言つと安心院さんは俺の上から退く。

「めだかちゃんはどうする?」

「……うむ。」

貴様が作る料理を久々に食べたいしな。  
もらつとしよう

2人は少しだけ笑みを浮かべている。

……今日の朝は一段と疲れたな。

そんなことを思いながら2人を見る。

今日という1日が始まった。

そう、実感しながら。

## ブローグな1日（早朝）（後書き）

こんにちはーおはよう

めだかボックスの連載はこれで2つめですね。

今回もめだかボックスのヤンデレです。

もう1つのは原作にそってますが、今回は少し違います。

一応、オリジナルの話を中心に書いていくつもりです。

PS『このキャラを出してほしい』や『こんな話を見てみたい』等のリクエストを何時でも募集しています!!

ブローグな1日(朝)(前書き)

8割りセリフです！

……どうしてこうなった。

## ブローグな1日（朝）

めだかちゃんと安心院さんに朝食を作り、2人に帰ってもらってすぐに支度をして弁当を作り学園に向かった。

学園について直ぐ、水泳部に向かう。

が

「見つけた！」

聞き覚えがある声がしたためそちらを向く。

そこには

「おはよう、補佐くん」

彼女        江迎さんが此方に近付きながら言う。

「こんなにも早く補佐くんに会えてよかったよ。

私、早朝からずっと探してたんだよ。

何で探してたかって言うとな、これを渡そうと思ってね。

じゃーん、私が作った手作り弁当だよ。

補佐くんに美味しく食べてもらえるように今日も頑張ったんだよ。  
補佐くんも料理が出来るんだし、何時かは2人で一緒に作ろうね。  
キッチンで2人仲良く料理するのが最近の私の夢なの。

だからね、やっぱり住むならキッチンが大きい家がいいな。

庭付きの白い家に私と補佐くんが2人仲良く暮らすの。

でも、何時までも2人じゃないよ。

やっぱり子供は欲しいもん。

子供は何人ぐらいがいいかな？

私は前も言っただけど女の子がふたりと男の子がひとりかな。

私と補佐くんの2人で女の子に料理を教えるのもいいよね。

私と補佐くんの子供ならきつと手先も器用だろうし、料理の腕前もすぐに上達するだろうし、今から楽しみだよ。

でも、あんまり女の子を甘やかしちゃダメだよ。

私と補佐くんの子供でも、補佐くんを奪おうとするなら嫉妬して殺しちゃうかもしれないから。

なーんて、嘘だよ。

私と補佐くんの子供を殺すわけ無いよ。

それ以外の女なら容赦なく殺すけどね。

私から補佐くんを奪おうとするんだから死ぬ覚悟は出来てるんだろうしね。

話はそれだけど、補佐くんは子供は何人欲しい？

前は私が話しすぎて結局教えてもらえなかったから今度こそ聞きたいな。

私は補佐くんが欲しいんなら何人でも大丈夫だよ。

補佐くんと私と子供達で早く家に住みたいね。

そういえば、この間私が住みたいと思った家を見つけたの。

私が希望するとおりの家だったんだよ。

これはきつと神様が私と補佐くんが早く結婚してこの家に住むように手配してくれたんだよね。

ここから少し離れちゃうけど大丈夫？

私は補佐くんがいる場所ならどんな場所でもかまわないよ。

私の居場所は補佐くんの隣だけだよ。

補佐くんが私に離れるなんて言ったら私、ショックで立ち直れなくなるよ。

そのせいで補佐くんを殺しちゃうかも。

うーん、でも補佐くんに死なれたら困っちゃうし、監禁でもしよ

うかな。

仲が良いカップルが1日中家で仲良く過ごすのはとても幸せなことでだと思うんだ。

私と補佐くんぐらい仲が良くなると一緒に居るだけで幸せになれるよ。

補佐くんさえ隣にいたら幸せだもん。

補佐くんは犬よりも猫が好きなんだよね。

私は犬のほうが好きだけど、補佐くんが猫好きなら猫を飼おうね。猫の名前は私に付けさせてね。

補佐くんに気に入って貰えるような名前を考えるから。

大丈夫だよ。

私に気を遣って犬を飼おうなんて言わなくても、私は猫も好きだもん。

補佐くんが私に気を遣ってくれて嬉しいよ。

補佐くんさえよければ私はなんだっていいよ。

それで補佐くんが満足するなら、私はなんだってやるよ。

私が昔気になってた人を殺してこいって言われたらちゃんと殺すよ。

昔とはいえ、私が補佐くん以外の人を気になってたなんて気に入らないだろうしね。

補佐くんは好きになった女の子とかいる？

いるわけないとは思うけど、気になってた人ぐらいはいるよね。別に私は気にしないよ。

だって、それは私と出会う前のことだもん。

今は私と出会ったんだからそんな人いるはずないよね。

今の補佐くんからすれば私以外の女の子なんてただのゴミだもんね。

そんなゴミを好きになるところか気になるはず無いよね。

ゴミはゴミだもん。

ゴミを好きになる人なんて聞いたことないよ。



私は補佐くん以外の男の子はゴミだと思ってるよ。

ただの邪魔なゴミ。

補佐くんだけが私の特別だよ。

補佐くんが私だけのことを特別だと思ってくれてるみたいだね。

でもね、補佐くんはそんなゴミにも少しは優しくしてあげなきゃダメだよ。

私は我慢するから大丈夫。

だって、補佐くんを私が独り占めしちゃうなんて他の女子に申し訳ないもん。

でも、しょうがないよね私と補佐くんが結ばれるのは運命なんだから。

結ばれるしかないんだよ、私と補佐くんわ。

だから、そんな補佐くんは私以外の女子にも少しは優しくするのと。

嫌かもしれないけど、そうでもしないと他の女の子が可愛そうだもん。

補佐くんみたいな素敵な人と結ばれる運命にある私ばかりが幸せになるわけにはいかないでしょ。

他の女子にも少しは幸せになってもらいたいもん。

でも、優しくしすぎちゃダメだよ。

私以外の女の子に優しくしすぎてる補佐くんなんてみたらその女の子に嫉妬して殺しちゃうもん。

だから、優しくしすぎちゃダメ。

あつ、勘違いしないでね。

別に補佐くんを疑ってるわけじゃないんだよ。

ただ、補佐くんは優しくすぎると思うの。

無理して私以外に優しくする必要は無いんだよ。

補佐くんが優しくすぎるせいで補佐くんのことを好きになってる人もいるんだから。

補佐くんには私がいるのに好きになるなんて、意味がわからない

よね。

どんなに頑張っても報われない恋なんてテレビドラマだけで充分なのに。

私と補佐くんは絶対に報われる恋だもんね。

補佐くんが優しすぎるせいでそんな報われるはずが無い恋に頑張る人がいるんだよ。

私はそんな人を殺しちゃいたいけど、今は我慢してるの。

補佐くんと結ばれる運命にあるいじょう、これからもそんな人達が増えてくと思うの。

そんな人達を毎回殺してたらキリがないもんね。

だから、私は我慢することにした。

報われるはずが無い恋に頑張ってる女子達のために幸せになるために。

そんな人が増えてくぐらい私の彼は素敵な人物だと思ったために。

あつ、勘違いしちゃだめだよ。

補佐くんが素敵な人物だなんて私は既にわかってるわ。

私の運命の人がどれだけ素敵かだなんてわかってるわ。

補佐くんは私のこと素敵だと思ってくれてるよね。

補佐くんに釣り合う女子だと思ってくれてるよね。

少し自信無いかな。

補佐くんみたいな素敵な彼に釣り合ってるかな？」

「そのままの江迎さんが一番だと思うよ」

俺が言っていると江迎さんが嬉しそうな笑みを浮かべて口を開こうとしたため俺が言う。

彼女は思い出したのかあわててカバンから何かを取り出す。

「はい、補佐くん今日のお弁当だよ」

そう言う江迎さんの手には弁当が入っているであろう袋があった。

「何時もありがとう」

俺は袋を取り自分の鞆に入れる。

「今日も屋上で待ってるよ」

俺は江迎さんに言う。

最近になって俺は江迎さんに弁当を作って貰っている。

江迎さんは料理が上手く、この弁当は秘かな俺の楽しみになりつつある。

昼は江迎さんの頼みであり、ちょっとした恩返しにもなればということで一緒に食べることにしている。

江迎さんのお願いを聞くといったらこうなったのだ。

俺としても、俺のことを思ってくれる彼女（しかもちよう可愛い子）と食べられるなんて幸せだ。

「うん！ 今日も待ってるね」

そう言って江迎さんは何処かに向かって歩いていった。

……俺も急ぐか

俺は江迎さんから貰った弁当と自分が作った弁当の2つを持ち、再び水泳部へと足を進めた。

## ブローグな1日（朝）（後書き）

こんにちはー勦bでーす

江迎さんのセリフ量マジパないのお。

こんなにも長いセリフを書いたのは初めてです。

上手く書けたかな？

さて、次回はいよいよ水泳部の彼女登場！！

PSリクエスト募集中です！！

と が主人公と する

例）安心院さんとめだかちゃんが主人公とポツキーゲームをする

江迎さんと主人公が結婚式場を訪問する

赤さんと安心院さんと江迎さんとめだかちゃんが主人公と遊園地に行く

といった感じを希望！

もしくは、シチュエーションだけでも大丈夫です

例）結婚式場を訪問する

遊園地でのデート

風邪を引いた主人公の看病

などでも、ありがたいです!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4832y/>

---

病みつき学園

2011年11月20日17時54分発行